

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学	平成20年度	久留原 昌宏	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

国語ⅠA・ⅠB・Ⅱの学習を受けて、3年生では、さらに日本語で書かれたさまざまな文章（小説・随想・評論・詩歌等）の読解を通して、社会人として必要な日本語の理解力、および日本語による表現力を身につけさせたい。

[授業の内容]

すべての内容は JABEE 基準 1 (1) の(a)および(f)、学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

第1週 本授業の概容および学習内容の説明

随 想 口笛男（角田光代）①

第2週 随 想 口笛男（角田光代）②

第3週 小 説 オデュッセイア（恩田陸）①

第4週 小 説 オデュッセイア（恩田陸）②

第5週 小 説 オデュッセイア（恩田陸）③

第6週 小 説 オデュッセイア（恩田陸）④

第7週 実用の文章 広告

第8週 前期中間試験

第9週 前期中間試験の反省

詩 表札（石垣りん）①

第10週 詩 表札（石垣りん）②

第11週 詩 祝婚歌（吉野 弘）①

第12週 詩 祝婚歌（吉野 弘）②, 詩の創作

第13週 評 論 知識の扉（港 千尋）①

第14週 評 論 知識の扉（港 千尋）②

第15週 評 論 知識の扉（港 千尋）③

第16週 評 論 知識の扉（港 千尋）④

後期

第1週 前期末試験の反省

随 想 待ちきれなくて（鷺田清一）①

第2週 随 想 待ちきれなくて（鷺田清一）②

第3週 随 想 待ちきれなくて（鷺田清一）③

第4週 随 想 待ちきれなくて（鷺田清一）④

第5週 評 論 人間はどこまで動物か（日高敏隆）①

第6週 評 論 人間はどこまで動物か（日高敏隆）②

第7週 評 論 人間はどこまで動物か（日高敏隆）③

第8週 後期中間試験

第9週 後期中間試験の反省

実用の文章 手紙

第10週 小 説 ころも（夏目漱石）①

第11週 小 説 ころも（夏目漱石）②

第12週 小 説 ころも（夏目漱石）③

第13週 小 説 ころも（夏目漱石）④

第14週 小 説 ころも（夏目漱石）⑤

第15週 小 説 ころも（夏目漱石）⑥

第16週 小 説 ころも（夏目漱石）⑦, ディスカッション

年間授業のまとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学（つづき）	平成20年度	久留原 昌宏	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(小説・詩歌)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小説・詩歌作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> <li>2. 小説のあらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解することができる。</li> <li>3. 詩歌について、作者の意図を理解し、表現技巧を把握することができる。</li> <li>4. 小説・詩歌について、鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。</li> <li>5. 小説・詩歌について、文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景を理解することができる。</li> <li>6. 教材をヒントにして、自分の心情を詩歌作品として表現することができる。</li> </ol>	<p>(随想・評論)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 随想・評論作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> <li>8. 随想の持つ表現上の特色を理解することができる。</li> <li>9. 随想・評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。</li> <li>10. 評論について、各段落、および全体の要旨についてまとめることができる。</li> </ol> <p>(表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 学習したことを踏まえ、相手に説得力をもって自分の言いたいことを伝える広告文・手紙文を書くことができる。</li> <li>12. 学習したことを踏まえ、パネル・ディスカッションを行うことを通して、「公」の言葉で自らの意思を相手に伝えることができる。</li> </ol> <p>(漢字・語彙)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを年間10回程度実施し、社会人として必要な漢字・語彙力を習得している。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会人としての日本語の理解力・表現力を備え、近現代の日本文化全般に親しむことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。出された課題は期限を守り、必ず提出すること。なお、第2学年に引き続き、文部科学省認定の「漢字能力検定試験」への積極的な取り組みを奨励する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 国語ⅠA・ⅠB・Ⅱの学習内容全般。</p>	
<p>[レポート等] 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。また夏期休業中の宿題として、外部コンクールに応募する、課題図書による読書体験記または定められたテーマによるエッセイを執筆させ、提出させる。</p>	
<p>教科書：「現代文 新訂版」（筑摩書房）          参考書：「増補四訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社），「三訂版漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）          学校指定の「電子辞書」，「国語表現活動マニュアル」（明治書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 2回の中間試験・2回の定期試験の平均点を60%、小テスト・提出課題・口頭発表等の結果を40%として評価する。</p> <p>ただし、前記中間・前期末・後期中間試験の評価で60点に達していない学生については再試験を行い、80点以上に達した場合に限り、試験成績を60点に置き換えて評価するものとする。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ	平成20年度	伊藤 清	3	通年	履修単位 3	必

[授業のねらい] 2年生に引き続いて、微分積分学の学習を行う。微分積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる学問である。前半は1変数の微分について第2学年で扱えなかった内容(逆三角関数・助変数・n回微分・平均値の定理等)とテイラー展開について学ぶ。半ば頃から独立変数が2つの関数の微分(偏微分)とその応用について述べる。さらに、2変数の関数の積分について学習する。

[授業の内容]	
<p>前期 すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) &lt;基礎&gt; および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する。</p> <p>前期(週2回)</p> <p>第1週 2年微分の復習、極値の判定条件</p> <p>第2週 第2次導関数と曲線の凹凸、増減表への応用</p> <p>第3週 逆関数と導関数、逆三角関数</p> <p>第4週 曲線の媒介変数表示と微分</p> <p>第5週 極座標表示と曲線</p> <p>第6週 ロルの定理と平均値の定理</p> <p>第7週 コーシーの平均値の定理、ロピタルの定理</p> <p>第8週 中間試験、等比数列等についての復習</p> <p>第9週 ベキ級数、収束半径、</p> <p>第10週 高次導関数、関数を近似する2次式の形</p> <p>第11週 関数を近似するn次式の形、パソコンでの近似の確認、</p> <p>第12週 マクローリンの定理、テイラーの定理</p> <p>第13週 マクローリンの定理の剰余項、テイラー展開</p> <p>第14週 2項展開とその拡張、</p> <p>第15週 2変数関数とそのグラフ、</p> <p>第16週 2変数関数の極限、連続</p>	<p>後期(週1回)</p> <p>第1週 偏導関数の定義、</p> <p>第2週 全微分と応用</p> <p>第3週 2変数の合成関数の微分</p> <p>第4週 代表的2次曲面とそれらのヘシアンの正負</p> <p>第5週 2変数関数の極大と極小の必要条件、十分条件</p> <p>第6週 2変数関数の極値問題の演習</p> <p>第7週 陰関数定理</p> <p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 接線と法線</p> <p>第10週 条件付き極値問題</p> <p>第11週 重積分の定義</p> <p>第12週 重積分と累次積分</p> <p>第13週 積分の順序変更</p> <p>第14週 体積計算への応用</p> <p>第15週 極座標による重積分</p> <p>第16週 広義積分への応用</p>

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ（つづき）	平成20年度	伊藤 清	3	通年	履修単位3	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1変数関数の微分や積分に関する基礎知識が定着していること。</li> <li>第2次導関数とその曲線の凹凸との関係が理解できる。</li> <li>曲線の媒介変数表示とその接ベクトルの概念が理解できる。</li> <li>逆関数の微分公式が理解でき使える。</li> <li>グラフの極座標表示と直交座標での表示との関係が理解できる。</li> <li>平均値の定理を理解しロピタルの定理に基づいて極限計算ができる。</li> <li>べき級数とその収束半径が理解できる。</li> <li>高次導関数が計算できる。</li> <li>テイラーやマクローリンの定理を理解し、関数のテイラー展開やマクローリン展開の計算ができる。</li> <li>2変数関数のグラフ（曲面）を理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 偏導関数の意味を理解し計算することができる。</li> <li>2. 合成関数の偏導関数を理解しその計算を行うことができる。</li> <li>3. 偏導関数の極値を理解し簡単な関数に対して極値を求めることができる。</li> <li>4. 陰関数の微分を計算できる。</li> <li>5. 陰関数で与えられる曲線の接線や法線が計算できる。</li> <li>6. ラグランジュの乗数法が使える。</li> <li>7. 重積分の定義・概念と性質を理解できる。</li> <li>8. 多くの場合、重積分が累次積分に帰着されることを理解し、その値を計算で求めることができる。</li> <li>9. 累次積分の順序変更ができる。</li> <li>20. 重積分を用いて立体の体積を計算できる。</li> <li>21. 極座標変換による重積分の計算をすることができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>1変数関数の微分・2変数関数の偏微分・重積分についての基礎概念および諸定理を理解して、扱われている基本的な計算や典型的例への応用もできる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～21を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験および課題についての小テストで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。問題のレベルは教科書の問や練習問題と同等である。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 授業中とテスト直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習を大切にしてください。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 2年生で学んだ基礎的な微分積分の計算については、よく習熟していることが必要です。</p>	
<p>[レポート等] 適宜宿題を課します。夏期休業に課題を出します。また必要に応じて小テストを行ったり、成績不振者へは再試やレポートを課します。</p>	
<p>教科書：「新編高専の数学3」 田代嘉宏他（森北出版）          参考書：「新編高専の数学2, 3問題集」 田代嘉宏他（森北出版）, 「解析概論」 高木貞治（岩波書店）, 「すぐわかる微分積分」 石村園子（東京図書）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 4回の定期試験（前期中間、前期末、後期中間、学年末）の平均点で評価する。ただし、学年末試験を除く3回の試験については60点に達していない者に再試験や課題を課す。再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。課題については提出時に小テストで出来る事を確認の上最大1割までの不足する点を補えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅲ	平成20年度	篠原雅史	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

1. 微分積分Ⅰで学習した内容に続き、1変数関数の積分の学習を更に深めて行く。その結果を面積体積等の計算に応用する。
2. 工学の諸分野の理解には線形代数の理解が必要である。行列式に関する学習を行う。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する。

前期

- 第1週 2年生範囲の積分の復習 (積分の基本性質)
- 第2週 2年生範囲の積分の復習 (積分の基本公式)
- 第3週 2年生範囲の積分の復習 (置換積分)
- 第4週 2年生範囲の積分の復習 (部分積分)
- 第5週 無理関数の積分
- 第6週 分数関数の積分 (1)
- 第7週 総合的な復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 分数関数の積分 (2)
- 第10週 3角関数の積分 (1)
- 第11週 3角関数の積分 (2)
- 第12週 様々な関数の積分
- 第13週 和の極限值としての定積分
- 第14週 面積の計算
- 第15週 総合的な復習と演習
- 第16週 総合的な復習と演習

後期

- 第1週 体積の計算
- 第2週 曲線の長さ (1)
- 第3週 曲線の長さ (2)
- 第4週 広義積分
- 第5週 行列式の定義
- 第6週 行列式の性質
- 第7週 復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 行列式の展開と積
- 第10週 逆行列
- 第11週 連立1次方程式
- 第12週 行列の固有値と対角化 (1)
- 第13週 行列の固有値と対角化 (2)
- 第14週 行列の固有値と対角化 (3)
- 第15週 総合的な復習と演習
- 第16週 総合的な復習と演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅲ（つづき）	平成20年度	篠原雅史	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2年生の範囲の積分に関する知識が定着している.</li> <li>2. いろいろな関数（無理関数, 分数関数, 三角関数等）の積分の計算ができる.</li> <li>3. 区分求積法と積分の関係が理解できる.</li> <li>4. 積分の応用として面積, 体積, 長さを計算することができる.</li> <li>5. 広義積分の概念理解しその計算を行うことができる.</li> <li>6. 行列式の概念と性質を理解できる.</li> <li>7. 行列式の計算を行うことができる.</li> <li>8. 行列の正則条件と行列式と行列式と行列式と逆行列の計算を行うことができる.</li> <li>9. クラームルの公式を理解し計算を行うことができる.</li> <li>10. 行列の固有値, 固有ベクトルの性質を理解し, 計算することができる.</li> </ol>	
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>微分積分1に学んだ積分や行列をさらに進めて, いろいろな関数の不定積分や定積分の計算, 行列式と行列の固有値の計算と簡単な応用ができる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」の習得の度を, 中間試験, 期末試験, レポートにより評価する. 各項目の重みは概ね均等とする. 試験問題とレポート課題のレベルは, 100点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する.</p>
<p>[注意事項] この科目は高専での工学の学習全ての基礎となる必須の科目であり, 積極的な取り組みを期待します. 疑問が生じたら質問するなどして, 理解してから次の授業に臨むこと. 問題集など多くの演習問題を解くことが理解を深めることにつながります.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 基礎数学 I, II, III, 微分積分1で学習した全ての内容.</p>	
<p>[レポート等] 理解を深めるため, 長期休暇等に, 課題を与える.</p>	
<p>教科書: 高専の数学2 (森北出版) および 高専の数学3 (森北出版) の一部  問題集: 高専の数学2 問題集 (森北出版) 高専の数学3 (森北出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験, レポートの提出状況等を総合的に判断して, 100点満点で評価する.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ	平成 20 年度	浜口 仁	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

英文の内容を正しく理解するためには、英文の構造を正しく把握していなければならない。そのためには語彙とともに文法の知識を身につけている必要がある。

この授業の主な目標は英文法の知識を身につけることである。名詞・代名詞に始まり進行形・完了形・態・不定詞などの文法項目に関する基礎的な知識を定着させたい。この授業で学習した英文法の基礎的知識を、今後の Reading の能力、自分の考えを英語で表現する Oral Communication 能力、そして英作文 (Written Communication) 能力などの英語運用能力を高めることに結びつけていきたい。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(C)<英語>と JABEE 基準 1(1)f に対応する。

前期

- 第 1 週 Introduction
- 第 2 週 名詞
- 第 3 週 代名詞(1)(2)
- 第 4 週 進行形・完了形(1)(2)
- 第 5 週 進行形・完了形(3)
- 第 6 週 助動詞 (1)(2)
- 第 7 週 助動詞(3)
- 第 8 週 態(1)(2)
- 第 9 週 中間試験
- 第 10 週 不定詞(1)(2)
- 第 11 週 分詞(1)
- 第 12 週 分詞(2)
- 第 13 週 動名詞(1)
- 第 14 週 動名詞(2)
- 第 15 週 形容詞・副詞
- 第 16 週 比較(1)(2)

後期

- 第 1 週 関係詞(1)
- 第 2 週 関係詞(2)
- 第 3 週 関係詞(3)
- 第 4 週 否定表現(1)(2)
- 第 5 週 時の表現
- 第 6 週 原因・理由の表現
- 第 7 週 目的・結果・程度の表現
- 第 8 週 譲歩の表現
- 第 9 週 中間試験
- 第 10 週 条件・仮定の表現(1)
- 第 11 週 条件・仮定の表現(2)
- 第 12 週 様態・範囲・制限の表現
- 第 13 週 強調・倒置の構文
- 第 14 週 省略・挿入の構文
- 第 15 週 名詞構文・無生物主語
- 第 16 週 総復習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ（つづき）	平成 20 年度	浜口 仁	3	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 授業で取り上げた各文法・語法項目が理解できる。</p> <p>2. 学習した文法・語法項目に基づいて short passage(短文)の内容が理解できる。</p>	<p>3. 学習した文法・語法項目を用いて、基本的な英文を作ることができる(英作文能力)。</p> <p>4. 授業で学習した文法・語法の知識を基礎として今後の英語の運用能力を高めることに結びつけることができる(英語発信能力)。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>各文法・語法項目を理解することによって英文の構造が把握でき、short passageの内容が理解できる。またこれを用いて基本的な英文をつくることができる。さらに、今後、正確に英文を読む Reading の能力の向上や、Written Communication などの英語発信能力に結びつけることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～4の習得の度合を中間試験、期末試験により評価する。試験問題レベルは、100点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。</p> <p>前回の授業で習ったことがどれだけ定着しているかまた、復習の程度をみるために小テストを毎授業に実施する。小テストの得点はその得点に応じて、中間試験、期末試験の得点に加点またはそれから減点する場合がある。</p> <p>必要に応じて課題を課すことがある。</p>
<p>[注意事項] 英語の学習は毎日こつこつ行うことが重要である。日頃から自主的に意欲的に予習・復習に励むこと。毎授業の小テストによって前回の授業の内容の定着度をテストするが、これだけに満足せずに日々自ら積極的に英語の学習に取り組んでほしい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>前年度までに学習した語彙・文法・語法知識を前提とする。</p>	
<p>[レポート等] 予習はテキストの Exercise を解いてくること、また「テキスト(タイトル名)」の英文が英訳できるようにしておく。復習としては授業ノートを整理し、Key Sentence を自分で使えるまで定着させておくこと。Key Sentence の暗記を小テストとする。</p>	
<p>教科書：English Grammar: Essentials for College Students 福井 慶一郎(大学英文法の要点)(朝日出版社)</p> <p>参考書：特に指定しないが、前年度までの参考書類、英和辞典、和英辞典(電子辞書も可)を準備しておくこと</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>原則、中間・期末の各2回、計4回の試験の平均点を最終評価とする。ただし、各試験において60点に達しなかった者には再試験、またはレポートなどを課す場合がある。この場合再試験において60点を上回った場合には、60点を上限として本試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講	平成20年度	中井・出口・林・齊藤・日下	3	後期	履修単位 1	必修

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語のみで行われる授業を通じて、様々な場面に対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)〈視野〉[JABEE 基準1(1)(a)] および(C)〈英語〉[JABEE 基準1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 Introduction</p> <p>第2週 Unit 1 “Getting To Know You”</p> <p>第3週 Unit 2 “Happy Eater”</p> <p>第4週 Unit 3 “Nine to Five”</p> <p>第5週 “Word Review: Unit 1-3”</p> <p>第6週 Unit 4 “The Way We Are”</p> <p>第7週 Unit 5 “Cars”</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 Unit 6 “When We are Young”</p> <p>第10週 “Word Review: Unit 4-6”</p> <p>第11週 Unit 7 “A Brighter Tomorrow”</p> <p>第12週 Unit 8 “Leisure and Sport”</p> <p>第13週 Unit 9 “Human Relationships”</p> <p>第14週 “Word Review: Unit 7-9”</p> <p>第15週 まとめ、演習</p> <p>第16週 総復習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語で行われる議論や討論の内容が理解できる。</p> <p>2. 質問に対して英語で答えることができる。</p> <p>3. 授業で使われる英単語・熟語・構文を聞いてその意味を理解し、その英語を書くことができる。</p>	<p>4. 学習したセンテンスを応用し、適切に使って表現することができる。</p> <p>5. 会話に出てくる文法事項が理解できる。</p> <p>6. 日本と外国における社会的・文化的違いを理解することができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習し身につけた英語の知識・技能を基礎とし、様々な場面に対応できるコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～6を網羅した事項を定期試験及び授業中に行われる口頭テストやプレゼンテーションや語彙テスト等の結果、および課題(レポート等)で目標の達成度を評価する。1～6の重みは概ね均等である。後期中間、学年末の定期試験の結果を5割、授業中に行われる口頭テストやプレゼンテーション等の結果、課題(レポート)、語彙テスト等の結果を5割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 授業時間はもちろん、それ以外の時間にも、自ら進んで多くの英語に触れることが望ましい。その手助けとなるよう、授業に関連した課題、レポートを課すことがあるので、提出期限を守り、計画的に学習を進めるよう努力すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを与える。</p>	
<p>教科書: <i>Chatterbox: A Conversation Text of Fluently Activities for Intermediate Students of English</i> (南雲堂)</p> <p>参考書: コンパクト英語構文90 (数研出版), コンパクト英語構文90ワークブック (数研出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>後期中間、学年末の定期試験の結果を5割、授業中に行われる口頭テストやプレゼンテーション等の結果、課題(レポート)、語彙テスト等の結果を5割とし、その合計点で評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。学年末試験においては、再試験を行わない。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎数学	平成20年度	安富, 横山, 大貫, 飯島	3	後期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>現在までに学んだ数学の中で, 専門分野の学習に必要な基本的な数学の知識を確実に身につける</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての授業の内容は, 学習・教育目標 (B) &lt;基礎&gt;及び Jabee 基準 1 の (1) (c) に対応する.</p> <p>第1週 2次関数・方程式・不等式</p> <p>第2週 恒等式・高次方程式・不等式</p> <p>第3週 場合の数・図形</p> <p>第4週 三角関数</p> <p>第5週 いろいろな関数</p> <p>第6週 平面ベクトルと行列</p> <p>第7週 復習と演習</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 空間ベクトルと直線・平面</p> <p>第10週 微分法</p> <p>第11週 微分的应用</p> <p>第12週 微分的应用</p> <p>第13週 不定積分</p> <p>第14週 定積分とその应用</p> <p>第15週 定積分とその应用</p> <p>第16週 演習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 基本的な方程式や不等式の解が求められる.</p> <p>2. 2次関数に関する基本を理解している.</p> <p>3. 2次関数に関する応用問題を解くことができる.</p> <p>4. 恒等式, 剰余の定理, 因数定理を理解し, 計算に利用できる.</p> <p>5. 不等式の証明ができる.</p> <p>6. 円に関する基本を理解している.</p> <p>7. 三角関数に関する基本を理解し, その計算ができる.</p> <p>8. 指数・対数に関する基本を理解し, その計算ができる.</p> <p>9. 基本的な関数のグラフを描くことができる.</p> <p>10. 平面ベクトルの基本を理解している.</p> <p>11. 順列・組み合わせの基本を理解している.</p> <p>12. <math>2 \times 2</math>の行列の基本を理解している.</p>	<p>13. 空間ベクトルの基本を理解している.</p> <p>14. ベクトルを用いて図形に関する問題を解くことができる.</p> <p>15. 基本的な関数の極限計算ができる.</p> <p>16. 微分の定義や微分係数の意味を理解している.</p> <p>17. 基本的な関数を微分することができる.</p> <p>18. 導関数と関数の増減の関係を理解し, 極値を求めること, および関数のグラフを描くことができる.</p> <p>19. 微分を利用して応用問題を解くことができる.</p> <p>20. 基本的な積分の計算ができる.</p> <p>21. 定積分の意味を理解している.</p> <p>22. 積分を利用して応用問題を解くことができる.</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>3学年までに習う数学の基礎的な事項を理解し, その運用力を身につけている.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1~22を網羅した問題からなる中間試験, 定期試験で, 目標の達成度を評価する. 達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが評価結果が百分法で60点以上の場合に目標の達成とする.</p>
<p>[注意事項] 専門分野を理解してゆくための欠くことのできない予備知識です. したがって, 完璧に理解してください.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1, 2学年までに学んだ基本的な事柄.</p>	
<p>[レポート等] 適宜, レポートや課題を与える.</p>	
<p>教科書: 本校数学科作成の教科書</p> <p>参考書: 「新編高専の数学1-3」(森北出版), 「新編高専の数学1-3 問題集」(森北出版), 本校数学教室のホームページ, Moodleの「総合基礎数学」のコース</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 後期中間と学年末試験の平均点とする. ただし, 後期中間試験が60点に達しなかった者には再試験を課し, 再試験の成績が上回った場合には, 60点を上限として後期中間試験の成績を置き換えるものとする.</p>	
<p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎物理	平成20年度	田村・土田・大矢	3	後期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>1年から3年生まで習ったことを、問題演習を中心として総復習し、理解を確実にし、物理の実力を付ける。</p>	
<p>[授業の内容] 第1週～第16週の内容はすべて、学習・教育目標 (B) &lt;基礎&gt;さらに JABEE基準1 (1) (c)に相当する。</p> <p>授業は問題演習を中心とする。</p> <p>問題集ステップ1の問題の理解を確実にする。</p> <p>ステップ1の問題が理解できたものは、ステップ2の問題を行う。</p> <p>第1週 運動の表し方</p> <p>第2週 落体の運動、放物運動</p> <p>第3週 力と運動の法則</p> <p>第4週 大きさのある物体に働く力</p> <p>第5週 運動量</p>	<p>第6週 仕事と力学エネルギー</p> <p>第7週 円運動と単振動</p> <p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 万有引力</p> <p>第10週 波の伝わり方</p> <p>第11週 共振と共鳴、ドップラー効果</p> <p>第12週 電界と電位</p> <p>第13週 コンデンサー</p> <p>第14週 電流回路</p> <p>第15週 電流回路 (キルヒホッフの法則)</p> <p>第16週 総合問題</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1年から3年生に習った物理の基礎的内容 (物理1 Bの教科書に書かれている内容) を確実に理解している。</p> <p>特に</p> <p>1. 運動方程式を作り運動が計算できる。</p> <p>2. エネルギー保存の法則を使った物体の運動の計算ができる。</p>	<p>3. 慣性力を理解し、運動の計算ができる。</p> <p>4. 波の基礎が理解されている。</p> <p>5. 電界、電位が理解され、これらを含む計算ができる</p> <p>6. 抵抗、コンデンサーの直列、並列接続を含む回路の計算ができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>1年から3年生までで習った物理を確実に理解しており運用できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～6を網羅した問題を1回の中間試験、および定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは、重みは概ね均等とする。試験の評価結果が百分法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 習熟度別のクラス編成にするが、試験は、統一問題で行う。試験は、基本問題 (問題集のステップ1のレベル) を主にするが、ステップ2のレベルからも出題の予定である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1～3年生の物理の基礎を理解していること。範囲が広く、一夜漬けの勉強では実力を付けられないので、日常的に、あるいは夏休みなどを利用して、自宅で復習すること。</p>	
<p>[レポート等] 特に無し。</p>	
<p>教科書：センサー物理 I+II (問題集) (啓林館)</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>後中間・学年末の2回の試験の平均点で評価する。ただし、後中間試験で60点を取得できなかった場合にはそれを補うための再試験を行う。その場合の評価は、60点を限度とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語A）	平成20年度	松林 嘉熙	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語を介した相互理解の向上のためには、表現内容の正しい理解が前提となる。英語Ⅰ、Ⅱで学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、標準的な英語運用能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>内容はいずれも、学習・教育目標(A)＜視野＞[JABEE 基準 1(1)(a)]および(C)＜英語＞[JABEE 基準 1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 授業の進め方について</p> <p>第2週 テレビの影響/疑問文</p> <p>第3週 もっと自転車に乗ろう/時制</p> <p>第4週 ユーモアの意味/助動詞</p> <p>第5週 スローフード/受動態</p> <p>第6週 様々なうそ/動名詞</p> <p>第7週 ストレス/不定詞</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 海洋汚染/分詞構文</p> <p>第10週 日本でのビジネスマナー/接続詞</p> <p>第11週 雲が浮く理由/関係詞</p> <p>第12週 火星人はいるか/関係詞</p> <p>第13週 日本家屋の塀/仮定法</p> <p>第14週 旅の楽しみ/仮定法</p> <p>第15週 国際化/名詞・代名詞</p> <p>第16週 心臓病/接続詞</p> <p>第17週 定期試験</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型、構文、および英文の要素を理解し、英文を完成させることができる。</p>	<p>2. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p> <p>3. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>標準的な英文が理解できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4を網羅した定期試験および授業中の小テストを行い、目標達成度を評価する。合計点の60%の得点で、目標達成が確認できる試験を課す。1～4の重みは概ね均等。</p> <p>「知識・能力」5については、定期的な課題提出により評価する。前期中間、前期末の定期試験の結果を5割、授業中に行われる小テストの結果および課題提出を5割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 自己学習を前提に授業を進め、『コンパクト英語構文90』に準拠した課題を課す、</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業に関連する小テストおよび課題を課す。</p>	
<p>教科書：Spread 3（第一学習社），コンパクト英語構文90（数研出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、期末の試験の評点を50%、小テストおよびその他課題の評価を50%とし、その合計点で評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が6割を上回った場合には60点として成績を置きかえる。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語B）	平成20年度	出口 芳孝	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>積極的にコミュニケーションを図ろうとする際には、時には文法を意識せず話すことも必要だが、内容を正確に理解し、また正確に相手に伝えるためには、文法や構文に関する理解は不可欠である。英語ⅠⅡで学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、簡単な英語を運用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞[JABEE 基準 1(1)(a)]および(C)＜英語＞[JABEE 基準 1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 Introduction 基本文型（5文型）</p> <p>第2週 It 中心の構文</p> <p>第3週 不定詞を含む構文</p> <p>第4週 分詞を含む構文</p> <p>第5週 動名詞を含む構文</p> <p>第6週 関係詞を含む構文</p> <p>第7週 否定の構文</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 助動詞を含む構文</p> <p>第10週 仮定法を含む構文</p> <p>第11週 接続詞を含む構文</p> <p>第12週 比較構文</p> <p>第13週 譲歩構文・無生物主語</p> <p>第14週 間接疑問・同格・強調構文・倒置構文</p> <p>第15週 名詞構文・その他</p> <p>第16週 まとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p> <p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p>	<p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p> <p>5. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>高校レベルの基本的な文法が理解でき、適切な構文を用いて内容を伝えることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4を網羅した定期試験および授業中の小テストを行い、それらによって目標の達成度を評価する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。1～4の重みは概ね均等である。「知識・能力」5については、課題もしくは小テストを課することによって評価する。前期中間、前期末の定期試験の結果を7割、小テストや課題の成績を3割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 自己学習を前提とした規定の単位制に基づいて授業を進め、課題提出を求めらるので、日常的に英語に触れる習慣を身につけ、英語学習に努めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業に関連する小テストおよび課題を課す。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90（ワークブックを含む）（数研出版）</p> <p>参考書：チャート式 LEARNERS' 高校英語（数研出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、期末の2回の試験の平均点を70%とし、小テストおよびその他課題の評価を30%とし、その合計点で評価する。ただし、試験で60点に達していない者には再試験を課す場合がある。その際は、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。前期末試験においては、再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語C）	平成20年度	斉藤 園子	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語 I, II で学習した英語の基礎知識と技能をもとに、英語の基本構造に関する理解を徹底させ、簡単な英語を活用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべて内容は学習・教育目標(A)＜視野＞および(C)＜英語＞に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 授業概要、成績評価法の説明、it 中心の構文</p> <p>第2週 it 中心の構文</p> <p>第3週 不定詞を含む構文</p> <p>第4週 分詞を含む構文</p> <p>第5週 動名詞を含む構文</p> <p>第6週 関係詞を含む構文</p> <p>第7週 否定構文</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 試験成績の確認、助動詞を含む構文</p> <p>第10週 仮定法を用いた構文</p> <p>第11週 接続詞を含む構文</p> <p>第12週 比較構文</p> <p>第13週 譲歩構文、無生物主語を含む構文</p> <p>第14週 間接疑問・同格・強調・倒置</p> <p>第15週 名詞構文・その他</p> <p>第16週 定期試験</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p> <p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p>	<p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的な英語構文を理解し、英語を「読む・書く」ことに活用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>英語を「読む・書く」に関する「知識・能力」1～4の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～4に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業に参加すること。学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語 I, II で学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連する小テスト、及び課題（英作、和訳等）を課す。</p>	
<p>教科書： コンパクト英語構文90（数研出版）</p> <p>参考書： Broad 総合英語（啓林館）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を60%、小テストの成績を20%、課題を20%として100点法で評価する。ただし、前半の成績（中間試験・小テスト・授業時・課題）が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育	平成20年度	舩越一彦	3	通年	履修単位 2	必

〔授業のねらい〕

各運動を通じて、基本的な運動能力の向上と基本的技能の習得を図る。ゲームや集団競技において協調性や個人の役割を自覚し、チームの力量に応じた練習やゲームができるようにする。余暇活動の一環として、運動を楽しみ、実践することによって活動的で豊かな生活を高め、心身の健全な発達を促す。

〔授業の内容〕

前期

- 第1週 スポーツテスト
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 バレーボール基本練習（パス、トス、レシーブ）
- 第4週 バレーボール基本練習（アタック、ブロック、サーブ）
- 第5週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第6週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第7週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 バレーボール実技テスト、ゲーム
- 第10週 水泳
- 第11週 水泳
- 第12週 水泳
- 第13週 水泳
- 第14週 バレーボール、ゲーム
- 第15週 バレーボール、ゲーム

後期

- 第1週 サッカー基本練習（キック、ドリブル、リフティング）
- 第2週 サッカー基本練習（パス、トラップ、ミニゲーム）
- 第3週 サッカー基本練習、ミニゲーム
- 第4週 サッカー基本練習、ミニゲーム
- 第5週 サッカー基本練習、ミニゲーム
- 第6週 サッカーゲーム
- 第7週 サッカー実技テスト、ゲーム
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 長距離走、サッカーゲーム、テニス（女子）
- 第10週 長距離走、サッカーゲーム、テニス（女子）
- 第11週 長距離走、サッカーゲーム、テニス（女子）
- 第12週 長距離走、サッカーゲーム、テニス（女子）
- 第13週 長距離走、サッカーゲーム、テニス（女子）
- 第14週 サッカーゲーム、テニス実技テスト（女子）
- 第15週 サッカーゲーム、テニス（女子）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（つづき）	平成20年度	船越一彦	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>バレーボールでの対人パス（ショート・ロングパス）とサーブができる。</li> <li>バレーボールでのトス（オーバートス、アンダートス）が男子連続20回以上、女子連続10回以上できる。</li> <li>自己の能力に応じた技能の習得や問題解決の努力によって個人技能を高め、意欲的に楽しくゲームに参加できる。</li> <li>水泳では、3種目（クロール、平泳ぎ、背泳）の25M完泳と1種目において100M完泳ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>サッカーでは、リフティング（足の甲、腿）が男子連続10回以上、女子連続5回以上できる。</li> <li>サッカーでのキック（インステップ・インサイド・アウトサイドキック、ボレーキック、ハーフボレーキック）が上手くできる。</li> <li>女子テニス・ソフトテニスでは、基本技能（グランドストローク、サーブ）が上手くできる。</li> <li>チームにおける自己の能力や役割を自覚し、お互い協力してゲームに参加できる。</li> <li>試合上の態度（協力・責任・公正等）や健康・安全に留意して授業に取り組むことができる。</li> <li>長距離走では、自己の達成目標に向かい、記録向上を目指して意欲的に取り組むことができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>自己の能力やチームの課題に適した練習やゲームを通じて個人技能や集団技能を高め、簡単な作戦を生かしたゲームができると共に、ルールを守り、積極的に運動に参加し、健康・安全について理解し体力向上を目指す態度を備えている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>学習への意欲・向上心・自主性・問題解決への努力、個人技能（能力、習熟の程度）、集団技能（役割、能力、戦術等）を考慮して評価する。評価結果は、百点法で60点以上の場合に目標達成のレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>服装は、原則として学校指定の運動服を使用のこと。</li> <li>日直は、事前に担当教官の指示を受け、クラス全員に連絡を徹底すること。</li> <li>身体に障害（内臓疾患、皮膚疾患等）があり運動制限のある学生は、医師の診断書を提出し、その旨を申し出ること。</li> </ol>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>バレーボール、サッカー、テニス・ソフトテニス（女子）についての試合上のルールを覚えておくこと。</p>	
<p>[自己学習]（履修単位の場合は[レポート等]）</p> <p>長期見学・欠席する学生については、レポートを提出すること。</p>	
<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>実技科目による評価を70点、授業に対する姿勢（学習意欲、向上心、記録成果への進展状況等）を30点として100点法で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I A	平成 2 0 年度	川合 洋子	3 留学生	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本授業の受講生である外国人留学生はすでに基本的な日常会話を習得しているとはいえ、実際の高専生活においてはまだまだ「言葉」や日本における生活習慣の違いに戸惑わざるを得ない状態である。社会生活及び高専生活の中では自分の意思を伝達するために、説得力のある表現技術が要求される。そこで本科目では彼らが習得してきた内容を復習、定着させ、さらに日本語で「文章を書く」、「本を読む」、「話を聞く」、「自ら話す」能力を高めることを目的とする。

[授業の内容]

前期

すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野><意欲>、及び (C) の<発表>に対応する。

前期

第 1 週 「日本語教育 I A」授業の概要および学習方法

第 2 週 初級段階の総復習

第 3 週 初級段階の総復習 (1) 「話す」

第 4 週 初級段階の総復習 (2) 「読む—漢字」

第 5 週 初級段階の総復習 (3) 「読む—漢字・語彙」

第 6 週 初級段階の総復習 (4) 「書く—文法・文型の確認」

第 7 週 初級段階の総復習のまとめ

第 8 週 前期中間試験

(「聴解力を養う」)

第 9 週 中級段階の学習 (1) 「聞く」

第 1 0 週 中級段階の学習 (2) 「聞く」

第 1 1 週 中級段階の学習 (3) 「聞く」

第 1 2 週 中級段階の学習 (4) 「聞く」

第 1 3 週 中級段階の学習 (5) 「聞く」

第 1 4 週 中級段階の学習 (6) 「聞く」

(「会話の練習」)

第 1 5 週 中級実践の学習 (7) 「友達と会話する」

第 1 6 週 中級実践の学習 (8) 「目上の人と会話する」

前期学習の総まとめ

後期

第 1 週～16 週までの内容は、すべて JABEE1, (1), (f) に相当する。

後期

第 1 週 「日本語を学ぶ意義」の再確認

(「本を読む」)

第 2 週 中級段階の学習 (8) 「読む—文章の読解」

第 3 週 中級段階の学習 (9) 「読む—文章の読解」

第 4 週 中級段階の学習 (1 0) 「読む—文章の読解」

(「文章を書く」)

第 5 週 中級段階の学習 (1 1) 「書く」

第 6 週 中級段階の学習 (1 2) 「書く」

第 7 週 中級段階の学習 (1 3) 「書く」

第 8 週 後期中間試験

(「文法・文型」の学習)

第 9 週 「文法・文型」の学習 (1)

第 1 0 週 「文法・文型」の学習 (2)

(「作文の作成」)

第 1 1 週 「短文の作成」 (1)

第 1 2 週 「短文の作成」 (2)

第 1 3 週 「作文の作成」 (1)

第 1 4 週 「作文の作成」 (2)

(「行動別の言語表現」)

第 1 5 週 (1) 人間関係を作る・あいさつする

(2) 情報をやりとりする・説明する・報告をする・質問する・質問に答える

第 1 6 週 授業の年間のまとめ

授業アンケート実施

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠA（つづき）	平成20年度	川合 洋子	3留学生	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>（「表現のよこび」）            感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現し、日常会話への自信に繋げる。</p> <p>（「初級段階の総復習」「聴解力を養う」）</p> <p>1. 「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」の初級段階のすべての項目について総復習する。</p> <p>2. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。</p> <p>（「会話の練習」）            音声教材や実際の話者による聴解練習を通し、日本語の通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。会話を聞いて理解する。</p>	<p>（「本を読む」「文章を書く」）</p> <p>1. 日本語のテキストの文章を読み、新しく学ぶ漢字・語彙について学習し身につける。</p> <p>2. 日本語の独特の表現方法を学び、正しく使う。質問された内容に正しく答える。</p> <p>（「文法・文型」の学習）</p> <p>1. 日本語の現代文の文章の中から、基本的な文法や文型を学び、正しく使う。</p> <p>（「作文の作成」）</p> <p>1. 原稿用紙の使い方、段落の分け方を学ぶ。</p> <p>2. 「作文」の作成技術の基本を学び、身近なテーマについて作文を書く。読んだ人がわかりやすい文が書けるように練習する。</p> <p>（「行動別の言語表現」）            それぞれの言葉の特性を知り、実際に使う時や場合を理解しつつ、コミュニケーション能力を養う。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現する能力を身につけるとともに、他者と円滑にコミュニケーションをとる能力を養う。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を2回の間中間試験、2回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>学習の対象が日本語の全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。授業中に疑問が生じたら直ちに質問すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>配布するプリントについて予習すること。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験のための学習も含む）及び、レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。</p>	
<p>教科書：プリント学習および聴解教材</p> <p>参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典などを持参すること。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験により60%、レポート等により40%評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>定期試験、レポート等により学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠB	平成20年度	川合 洋子	3留学生	後期	履修単位1	選

〔授業のねらい〕 本授業では先の「日本語教育ⅠA」の学習を受けて、中級段階の実用的な日本語の習得を主目標にする。本科目では「表現することのよこび」を学ぶことを柱に据え、具体的には「口頭表現力・聴解力」、「漢字」・「語彙」、「文法」、「作文力」をより向上させる。また、日本語能力検定一級取得を視野に入れた学習も行う。

〔授業の内容〕	
<p>すべての内容は学習・教育目標（A）の〈視野〉及び（C）の〈発表〉に対応する。</p> <p>第1週 「日本語教育ⅠB」授業の概要と学習方法 （「口頭表現力・聴解力」の養成）</p> <p>第2週 中級段階入門編の総復習（1）</p> <p>第3週 中級段階入門編の総復習（2）</p> <p>第4週 「話す・聞く」学習（「自己紹介」）</p> <p>第5週 「話す・聞く」学習（「日常会話」の応用） （「文章読解力の養成」）</p> <p>第6週 読解学習（1）</p> <p>第7週 読解学習（2）</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>（「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」の養成）</p> <p>第9週 実用用語（漢字・語彙）の学習（1）</p> <p>第10週 実用用語（漢字・語彙）の学習（2）</p> <p>第11週 実用用語（漢字・語彙）の学習（3）</p> <p>第12週 文法・文型の学習 （「生活作文」学習）</p> <p>第13週 「生活作文」学習（1）</p> <p>第14週 「生活作文」学習（2）</p> <p>第15週 「生活作文」学習（3）</p> <p>第16週 日本語教育ⅠBの学習のまとめ</p>

〔この授業で習得する「知識・能力」〕	
<p>（「表現のよこび」）</p> <p>1、感じたこと、考えたことを、日本語で思う存分表現できることがすばらしいことであることを学ぶ。</p> <p>2、日本人特有の感情や考え方を知り、日常のコミュニケーションに役立てる。</p> <p>（「口頭表現力・聴解力」の養成）</p> <p>1、日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。</p> <p>2、「自己紹介」や「日常会話」の学習を通して、「口頭表現力」の知識と能力を身につける。</p> <p>3、聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。</p>	<p>（「文章読解力の養成」）</p> <p>1、テキストの文章を読み、新しい漢字・語彙を学ぶ。</p> <p>2、テキストの文章の書き手の意図を理解する。文章を速く的確に読む。</p> <p>（「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」の養成）</p> <p>1、中級程度の漢字・単語・慣用句表現さらに三字熟語・四字熟語・擬態語など日本語特有の表現を習得する。</p> <p>2、作文についての基礎技術について習得する。</p> <p>（「生活作文」の学習）</p> <p>身近な課題をもとに作文を発表し、書き言葉としての日本語を学ぶ。</p> <p>（日本語教育ⅠBの学習のまとめ）</p> <p>すべての学習を通して、日本語教育Ⅱの学習の基礎にする。</p>

〔この授業の達成目標〕	〔達成目標の評価方法と基準〕
<p>感じたこと、考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに、日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う。</p>	<p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を1回の中間試験、1回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>

〔注意事項〕 日本における実際の日常生活の中において、何事にも「積極的」、「意欲的」に取り組むように努力する。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 実際の日常生活において、分からない言葉やことがらなどをメモしておくこと。

〔レポート等〕 授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験のための学習も含む）及び、レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が45時間に相当する学習内容である。

教科書：テキストのプリント学習 日本語聴解テープ。

参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の自主教材。

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 定期試験により60%、レポート等により40%評価する。

〔単位修得要件〕 学業成績で60点以上を取得すること。